

## 感動詞「いえーい」「うえーい」の意味・用法\*

田附 敏尚・枝松 奈美<sup>†</sup>・大山 茅紗<sup>‡</sup>・溝口 礼奈<sup>‡</sup>・山崎 真由<sup>‡</sup>

神戸松蔭女子学院大学 文学部 日本語日本文化学科・一般財団法人 日本国際協力センター<sup>†</sup>・神戸松蔭女子学院大学大学院生<sup>‡</sup>

tatsuki[at]shoin.ac.jp

### Meaning and Usage of the Interjections “Yeei” and “Weei”

TATSUKI Toshihisa · EDAMATSU Nami<sup>†</sup> · OYAMA Chisa<sup>‡</sup> ·

MIZOGUCHI Rena<sup>‡</sup> · YAMASAKI Mayu<sup>‡</sup>

Kobe Shoin Women’s University Department of Japanese Language and Culture  
Japan International Cooperation Center<sup>†</sup>

Graduate Student, Kobe Shoin Women’s University<sup>‡</sup>

#### Abstract

本稿ではうれしい気持ちを表す感動詞である「いえーい」と「うえーい」との違いを明らかにすることを目的とする。調査と考察の結果、以下のことが分かった。(1) 隣接ペア：どちらも第1発話のものが繰り返される。(2) 親疎関係（話者間の距離）：「いえーい」が近い関係性から少し遠い関係性まで使用されるのに対し、「うえーい」は近い関係性に限られる。(3) 感情を喚起させる事態が良いか悪いか：「いえーい」が良い事態で多く使われ、うれしさを表す用法が主となるのに対し、「うえーい」は相対的には悪い事態で多く使われ、からかいや冗談めかしなどの用法が主となる。(4) 感情の共有を志向するか否か：「いえーい」は感情の共有を志向せず、「うえーい」は感情の共有を志向する。このうち、「いえーい」と「うえーい」の使用には(3)のほうが(4)よりも大きく関与する。そして、「うえーい」の(2)から(4)の用法は、「うえーい」が若者が使う“仲間内のことば”であるという特徴を持つということに関連するということを述べた。

The purpose of this paper is to clarify the difference between the Japanese interjections “Yeei” (similar to the English “yay”) and “Weei”, both of which express a feeling of joy. Through research and consideration, the following has been found:

\*本研究は JSPS 科研費 JP22H00664 の助成を受けたものである。

(1) Adjacent Pairs: Both are repeated from the first utterance. (2) Degree of Intimacy: “Yeei” is used from close relationships to slightly distant ones, while “Weei” is limited to close relationships. (3) Whether it’s a good or bad situation: “Yeei” is often used in good situations, mainly expressing joy, while “Weei” is often used in bad situations, mainly used for teasing or joking. (4) Whether or not to aim for sharing emotions: “Yeei” does not aim to share emotions, while “Weei” aims to share emotions. The involvement in the use of “Yeei” and “Weei” is greater in (3) than in (4). Furthermore, it was stated that the usage of “Weei” from (2) to (4) is related to the characteristic of “Weei” being a “in-group slang” used by young people.

キーワード: 若者ことば、感情の共有、ポジティブ・ポライトネス、親疎関係、イエイ  
**Keywords:** youth slang, sharing emotions, positive politeness, degree of intimacy, yay

## 1. はじめに

本稿ではうれしい気持ちを表す感動詞である「いえーい」と、これに似た「うえーい」との違いを明らかにすることを目的とする<sup>1</sup>。これらは現在 SNS 等でよく用いられており、話しことばにおいても若者の間では (SNS ほどではないにせよ) 用いられている。以下の (1)(2) は、ともに Twitter<sup>2</sup> からの例である (下線は筆者による)。

- (1) 四段 合格の連絡がきました！ いえーい♪ (2022-09-15)
- (2) おはようございます (³ω³)。o  
 2 度寝したった うえーい  
 おやすみさいこう うえーい (2022-09-15)

(1) と (2) の「いえーい」と「うえーい」は、それぞれ入れ替え可能であるように思われる。では、これらの違いはどこにあるのだろうか。本稿では、筆者らが主に SNS から採集したデータと、アンケート調査結果をもとに、「いえーい」と「うえーい」の違いを明らかにしていく。

## 2. 先行研究

「いえーい」「うえーい」の意味・用法を記述した論考は、管見の限りでは見当たらない。感動詞が多く記載されている浅田 (2017) にもこれらに関する記載はなかった。

一般の辞書類を見ると、「いえーい」については『三省堂国語辞典 (第八版)』に

- ① 同意をあらわす。ああ、そうだとも。「『みんな、ノッてるかい?』『—!』」

<sup>1</sup>書きことばにおいてはカタカナ書きされること、打ちことばにおいてはそれに加えて半角で表されることもあるが、これらは意味・用法的には差はないと見做し、本稿では一括してひらがな書きの「いえーい」「うえーい」を用いる。また、長音がない「いえい」「うえい」もあり得るが、今回の考察にこれらは含まれていない。

<sup>2</sup>現在 “X” に名称変更がなされているが、調査段階では “Twitter” であったため、本稿では以降も “Twitter” の名称を用いる。

② きげんよく呼びかけることば。やあ。おーい。「—、ノッてる？・『—』とピースサインを出す」

③ うれしい気持ちをあらわす。わーい。やった。「—、あしたは休みだ」

とあり、応答や挨拶での使用とともに、うれしい気持ちを表す感動詞として使用されることが述べられている。

「うえーい」については、一般の辞書類への記載も管見の限りでは見当たらない。そこで WEB サイトに目を転ざると、『実用日本語表現辞典』というサイトに

仲間同士で盛り上がった時に発せられる若者言葉。単に軽い挨拶として、友人に会った時などにも用いられる。

という記述を見出すことができる<sup>3</sup>。また、同じく WEB サイト『コトバの意味辞典』では、当該ページの「「うえーい」の意味」という項目に

「うえーい」とは、「挨拶をする際に互いに交わす掛け声」であり、テンションの上があったとき、つまり楽しい雰囲気の中で気分が高揚したときに発せられる言葉です。

とあり、また「「うえーい」の使い方」という項目に

「うえーい」は、ネット上でも若者を中心に多く用いられています。挨拶などの他に、「誰かの言動をおだてたり、茶化したりするとき」「ドヤる（自分の言動を誇らしく思う表情をする）とき」などにも使われます。

と記載されている<sup>4</sup>。これらから、「うえーい」については以下の(3)のような記述がなされていると言える。

- (3) 1. 若者ことばである  
 2. 仲間内で盛り上がったとき（楽しい雰囲気でも気分が高揚したとき）に発せられることばである  
 3. 挨拶をする際にも交わされることばである  
 4. おだてたり、茶化したりするときにも使用されることばである

これらの WEB サイトの記述は、意味や用法の正確性という点では信頼しきることばではないものの、一般的にどのように考えられているかを知る手掛かりにはなるだろう。

このようにしてみると、「いえーい」も「うえーい」も、挨拶として用いられる点や、うれしい気持ちのとき（あるいは気分が高揚したとき）に発せられる感動詞として用いられる点で、似通っていることがわかる。本稿ではこのうち、特に後者の感動詞としての意味・用法に焦点を当て、その違いを論じていくこととする。

<sup>3</sup>「ウエーイ, ウエイ, ウエイウエイ」<[http://www.practical-japanese.com/2014/04/blog-post\\_3766.html](http://www.practical-japanese.com/2014/04/blog-post_3766.html)> (2023/11/08 アクセス) アクセス日段階では、「投稿時刻 15th April 2014、投稿者 Unknown」との記載がある。

<sup>4</sup>「「うえーい」とは？ 意味や使い方を顔文字を含めてご紹介」<<https://word-dictionary.jp/posts/1975>> (2023/11/08 アクセス) アクセス日段階では、「2019年03月11日公開 2019年03月11日更新」との記載がある。

### 3. 調査の概要

「いえーい」と「うえーい」の違いを導き出すために、まずはインターネット上にある実際の用例採集を行った。用例は、匿名電子掲示板「5ちゃんねる」、Twitter、Instagram、Facebook、LINE から、「いえーい」「うえーい」ともに約 200 例ずつ採集した<sup>5</sup>。それらの用例を確認したところ、筆者らの間で個人差はあるものの、多くは「いえーい」「うえーい」の入れ替えが可能であること、しかしその際ニュアンスが変化しているように感じられることがわかった。

この違いを明らかにするために、次にアンケート調査を行った。調査の概要を以下に記す<sup>6</sup>。

調査方法	Google フォームを使用したアンケート調査
調査対象	神戸松蔭女子学院大学 <sup>7</sup> に通う学部生 104 名
調査期間	2022 年 12 月 13 日～14 日
調査項目	独話・会話文全 14 項目 例文を提示し、その中の空欄 (X) の部分で「いえーい」と「うえーい」のどちらを使用するかを質問（「いえーい」「うえーい」「両方使う」「両方使わない」の 4 択）

調査文の選定にあたって、調査段階では以下の観点を考慮していた。

- ① 隣接ペア
- ② 親疎関係（話者間の距離）
- ③ 感情を喚起させる事態が良いか悪いか
- ④ 情報の共有が完了しているか未完了か

これをふまえ、以下では、①から④のそれぞれについて調査の結果を概観していく。

<sup>5</sup>採集を行った時期は 2022 年 10 月だが、用例が投稿された時期は古いもので「いえーい」が 2012 年 4 月、「うえーい」が 2013 年 3 月と幅がある（ともに Facebook の例）。

<sup>6</sup>本調査は 2022 年度神戸松蔭女子学院大学大学院の授業「日本語学演習 II B」の一環として行い、学部生には任意で協力をお願いした。“調査項目”にある 14 項目（例文 (4)～(15)）のほか、個人属性に関するものとしては年齢と性別のみを質問している。

<sup>7</sup>学生の出身地はアンケートでは問うていないが、大半は近畿地方（特に兵庫・大阪）出身者である。また、女子大学生ということもあって、データは地域的・性別的な偏りがあり、それが結果にかかわっている可能性も否めないが、その検証については今後の課題としたい。

## 4. 調査結果<sup>8</sup>

### 4.1. ①隣接ペア

まず、「いえーい」「うえーい」が第1発話<sup>9</sup>にあるとき、その後続発話においてどのようなるまいをするかを確認する。

(4) [LINEでのやりとり。仕事が終わったことを友達に報告]

A: 華金いえーい

B: (X)

(5) [LINEでのやりとり。仕事が終わったことを友達に報告]

A: 華金うえーい

B: (X)

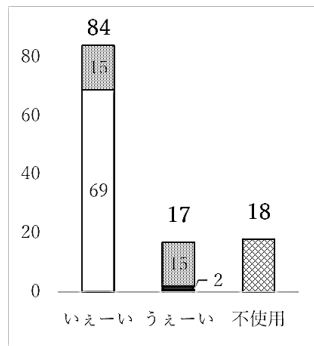


図1: 隣接ペア (いえーい)

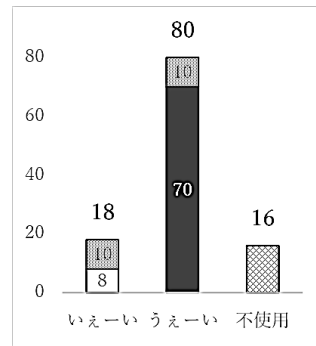


図2: 隣接ペア (うえーい)

(4)の結果が図1、(5)の結果が図2である。アンケートには「両方使う」という回答があるため、この回答数を「いえーい」「うえーい」の両方に含めて図を作成している。図中の「いえーい」「うえーい」それぞれにある網掛け部分がそれにあたる。

これを見ると、「いえーい」に対しては「いえーい」が、「うえーい」に対しては「うえーい」が選ばれていることがわかる。

### 4.2. ②親疎関係 (話者間の距離)

次に、親疎関係 (話者間の距離) について見てみよう。設定されているのは「近い距離」として“兄と弟・妹”、「少し遠い距離」として“これから仲良くなりそうな友達ど

<sup>8</sup>調査結果について補足しておく。すべての回答において「両方使わない」と答えた者は5名、「両方使わない」「いえーい」の回答のみで、「両方使う」「うえーい」の回答がない者は7名、「両方使わない」「うえーい」の回答のみで、「両方使う」「いえーい」の回答がない者は4名あった。つまり、今回のデータには、少なくとも調査範囲では当該の感動詞を使わない者5名分、個人内での使い分けがない者11名分のデータが含まれている。かつ、後者の11名のデータも、大半は「両方使わない」で、1つか2つの項目についてだけ「いえーい」あるいは「うえーい」を使うという回答をしているものが多い。以下の結果が全体的に「両方使わない」が多くなっているのは、このようなデータが含まれているためである。

<sup>9</sup>ここはLINEでのやりとりを想定しているため、実際は音声を伴う“発話”ではなく文字列の“投稿”と呼ぶべきだが、アンケートの設定においては会話のやりとり、Twitterでのつぶやき、LINEでのやりとりなどさまざまなものを想定しているため、これらを一括して“発話”と呼ぶこととする。

うし」、「遠い距離」として“親戚のおばさんと甥・姪”という関係である。例文は同じであるため、一括して(6)に示す。

- (6) [会話でのやりとり。{AはBの兄／AとBはこれから仲良くなりそうな友達／AはBの親戚のおばさん}]  
 A: 誕生日プレゼント、眼鏡でいいんだっけ？  
 B: いい眼鏡な！  
 A: おけおけ  
 B: (X)

これらの結果を図3から図5に示す。

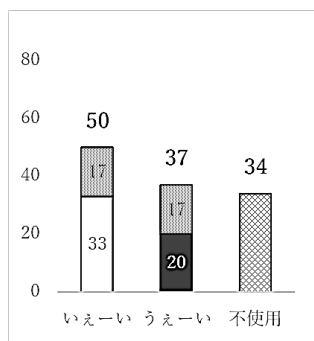


図3: 親疎関係 [近い]

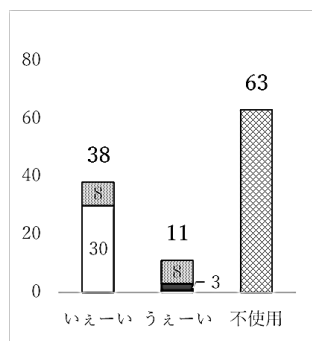


図4: 親疎関係 [少し遠い]

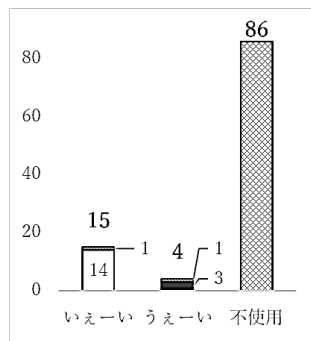


図5: 親疎関係 [遠い]

まず「近い距離」の図3では、「いえーい」が一番多いものの、一定数「うえーい」の回答数もあることがわかる。これと図4とを比べてみると、「いえーい」を使うという人の数はほとんど変化がない(図3: 33名, 図4: 30名)が、図4では「うえーい」を使う、あるいは「両方使う」という人の数が減り、「両方使わない」(不使用)という人の数が増えていることがわかる。図5になると、そこから「いえーい」の数も減り、大多数が「両方使わない」という回答となっている。

#### 4.3. ③感情を喚起させる事態が良いか悪いか

先行研究にあるように、「いえーい」「うえーい」ともに、うれしい気持ちのときに発せられることばであり、その感情を抱く発端となる事態は基本的に良い事態であると考えられる。しかし一方で、自分あるいは他人が悪い事態に接したとき、からかいや自虐、あるいはから元気として喜んでみせる、楽しんでみせるという言語行動もあり得る。また、悪い事態だがそれを楽観し、冗談めかしたり笑い飛ばしたりするようなこともあるだろう。ここで取り上げるのは、そのようなときの使用の可否を問うものである。

- (7) [Twitterでのつぶやき。Aは仕事楽しい]  
 A: 今日も元気に出勤 (X)

(8) [Twitterでのつぶやき。Aはほんとうは仕事に行きたくない]

A: 今日元気に出勤(X)

(7)が良い事態、(8)が悪い事態という想定であり、それぞれの調査結果をグラフ化したものが図6、図7である。

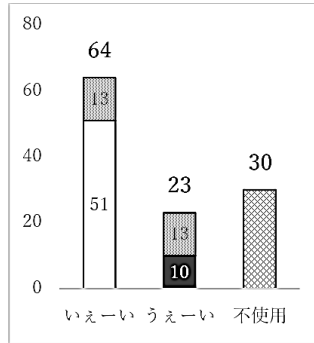


図6: 事態の良し悪し  
〔話し手の良い事態〕

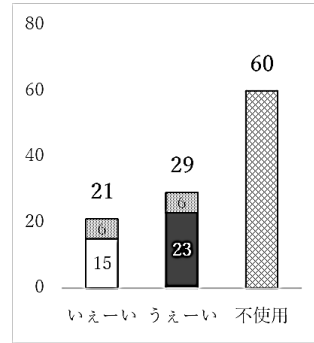


図7: 事態の良し悪し  
〔話し手の悪い事態〕

これを見ると、良い事態では「いえーい」に大きく傾き、悪い事態では「不使用」が多くなるのがわかる。本来うれしい気持ちのときに発せられることばであることを考えると、悪い事態で「不使用」が多いのは肯ける結果である。しかし、図7において、それでも使用するとき「いえーい」と「うえーい」のどちらを使用するかを見てみると、良い事態とは逆に、「うえーい」のほうが選択されている点は注目に値する。

(7)(8)は話し手にとって良い事態か悪い事態かということであったが、以下の(9)(10)は事態の良し悪しが話し手と聞き手双方に参与しており、(11)は聞き手のみが悪い事態に直面しているときを想定したものである。(9)(10)の結果が図8と図9、(11)の結果が図10である。

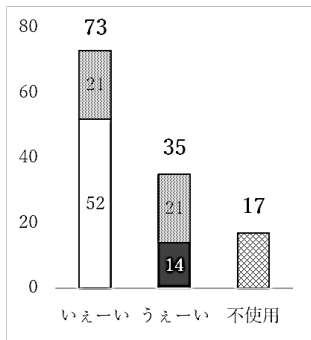


図8: 事態の良し悪し  
〔双方の良い事態〕

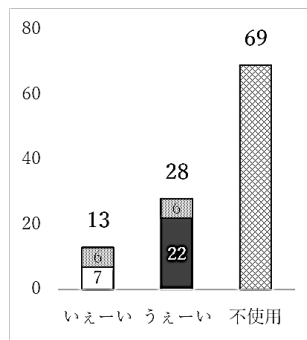


図9: 事態の良し悪し  
〔双方の悪い事態〕

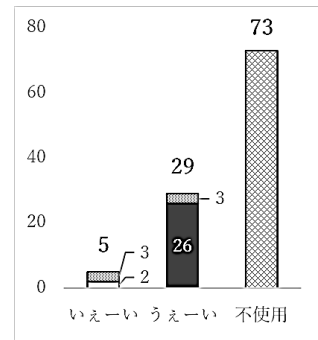


図10: 事態の良し悪し  
〔聞き手の悪い事態〕

これらを見てもやはり良い事態では「いえーい」が多く選択され、悪い事態では「不使用」が多く選択されていることがわかる。かつ、悪い事態においてなお「いえーい」と「うえーい」のどちらが選択されているかを見ると、やはり「うえーい」のほうが多いと

いうのも、先に挙げた例と同様である。

(9) [LINEでのやりとり。AはBと一緒にいくライブのチケットを申し込んでいた]

A: ライブ当たった! 飲み行こ

B: (X)

(10) [LINEでのやりとり。AはBと一緒にいくライブのチケットを申し込んでいた]

A: ライブはずれた! 飲み行こ

B: (X)

(11) [LINEでのやりとり。AとBは同じ授業を受けているが、Bが教室に来ていない]

A: 今日サボり?

B: 寝坊や笑

A: (X)

#### 4.4. ④情報の共有が完了しているか未完了か

最後に情報の共有が完了しているか未完了かという点について結果を示すこととする。この点については、まずどのようなものを情報共有の完了・未完了と捉えているかの説明から始める。

(12) [LINEでのやりとり。AとBは同じバイト先]

A: 今月のバイト代めっちゃ入ってた笑

B: 私も

A: (X)

(13) [LINEでのやりとり。AとBは同じバイト先]

A: 今月のバイト代めっちゃ入ってた笑

B: 私も (X)

上記の(12)と(13)との違いは、AとBのどちらが当該の感動詞を発するか、という点にある。(12)の場合は、Aの発話を受けて、Bも同様の状況だとA・B双方が理解できたうえで、Aが再度発話するものである。これに対して(13)は、Bが同様の状況だと述べるのと同時に感動詞も発話されることになり、同様の状況かどうかはAに理解されないまま感動詞が発せられることになっている。本稿では、この(12)のような状況を情報の共有が完了している、(13)のような状況を情報の共有が未完了であると捉える。

(12)(13)はともに「バイト代がたくさん振り込まれていた」という良い事態であるが、悪い事態についても設問を立てている。それが以下の(14)(15)である。

(14) [LINEでのやりとり。AとBは同じ授業を受けている]

A: 寝坊や笑

B: 私も

A: (X)



(15) [LINE でのやりとり。A と B は同じ授業を受けている]

A: 寝坊や笑

B: 私も (X)

さて、これらの結果はどうなっているだろうか。結果の図を以下に示す。(12)の結果が図 11、(13)の結果が図 12、(14)の結果が図 13、(15)の結果が図 14 である。

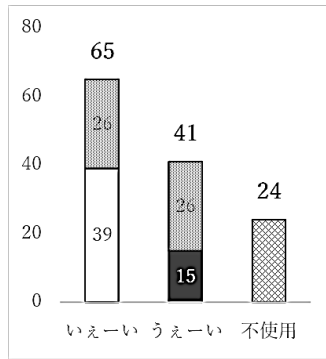


図 11: 情報共有完了・未完了  
〔完了／双方の良い事態〕

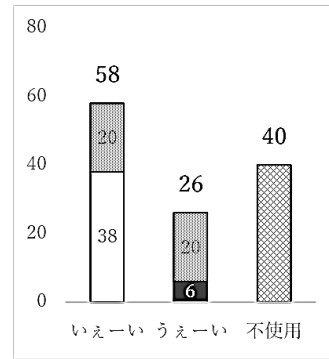


図 12: 情報共有完了・未完了  
〔未完了／双方の良い事態〕

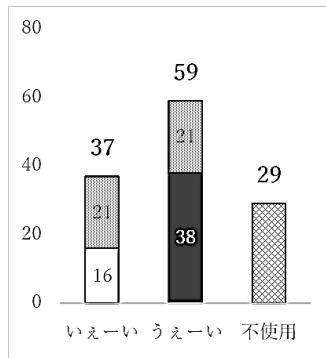


図 13: 情報共有完了・未完了  
〔完了／双方の悪い事態〕

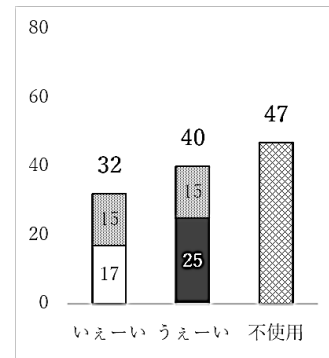


図 14: 情報共有完了・未完了  
〔未完了／双方の悪い事態〕

これらからわかることを以下に示す。

まず、「いえーい」と「うえーい」のどちらが多く選択されているかを比べると、図 11 と図 12 は「いえーい」が、図 13 と図 14 は「うえーい」がそれぞれ多く選択されている（ただし図 14 において一番選択されているのは「不使用」）。これはつまり、情報共有の完了・未完了に関わらず、良い事態であれば「いえーい」の選択が多くなり、悪い事態であれば「うえーい」の選択が多くなるということである。

図 11 と図 12 の比較、図 13 と図 14 の比較を行うと一すなわち情報共有の完了と未完了を比べると、いずれも「いえーい」と「うえーい」は未完了よりも完了のほうが値が高いが、完了と未完了の差は、「いえーい」よりも「うえーい」の方が大きい。また、「不使用」については、情報共有の完了よりも未完了のほうが高い値を示すことがわかる。

## 5. 分析・考察

### 5.1. ①隣接ペア

以上、アンケート調査結果について見てきた。ここからはそれぞれの観点について考察することとする。

まず隣接ペアについてだが、ここでは以下の2点について着目したい。

1点目は、「不使用」が他の回答に比べても少ないことについてである。これは、他者が「いえーい」「うえーい」と発話したら、それに「いえーい」「うえーい」で返すという連鎖が、少なくとも不自然ではないということの意味する。Schegloff & Sacks (1973) が言うところの「ある対偶成分はもう一つの成分を特定化する関係にある」<sup>10</sup> という意味において、これらはまさに隣接ペアをなしていると言える。

2点目は、隣接ペアにおいて、第1発話と同じ感動詞が選択されていることについてである。同じ表現がオウム返しされるという点については、橋内 (1999) が挨拶について「ふつう相互換用的 (reciprocal) であり、相手の言った表現を繰り返す」(橋内 1999: 91) と述べており、また岡村 (2019) も挨拶の繰り返しが起こることに言及した上で、「さらに、「認識—認識」でも発話のオウム返しが行われていたことから、開始部の最初の方ではオウム返しが好まれると解釈される」(岡村 2019: 88) と、挨拶以外でもオウム返しのやりとりが行われることを指摘している。2節で述べたように、「いえーい」と「うえーい」はともに挨拶として用いられる。(4)(5)での用いられ方は挨拶に近接しているとも見ることができよう。また、今回の設問は(4)(5)以上の文脈設定はしていないため、解釈が揺れる可能性はあるが、会話の開始部という想定は十分できる。すると、今回の結果は、これらの先行研究と同様の結果が観察されたものだと言えることができる。

### 5.2. ②親疎関係 (話者間の距離)

親疎関係について、筆者らは、当初「近い距離」であれば「うえーい」が優勢に、「少し遠い距離」であれば「いえーい」が優勢に、「遠い距離」では「不使用」が優勢になるのではないかと予想していた。全体的な「不使用」の多さを除けば、この予想に反していたのは「近い距離」で「うえーい」より「いえーい」のほうが多く選択されていた点である。

この点については、プレゼントに眼鏡を買ってもらえるという事態が良い事態であったことが関係すると思われる。4.3節で見たとおり、「いえーい」は良い事態に出てきやすい感動詞である。そのため、「近い距離」でも「うえーい」を上回ったものと解釈できる。この点を考慮すると、「いえーい」は「近い距離」から「少し遠い距離」までは幅広く用いることができる感動詞であるのに対し、「うえーい」は「近い距離」でのみ使用できる感動詞であり、使用範囲は「いえーい」に比して狭いということができる。ただし、今回は悪い事態における親疎関係は見えていないため、これについては今後の課題としたい。

<sup>10</sup> 訳は北澤・西阪 (訳) (1989) に拠った。

### 5.3. ③感情を喚起させる事態が良いか悪いか

事態の良し悪しについて、悪い事態において「不使用」が選択されたのは、4.3節で述べたとおり、「いえーい」「うえーい」の本来の意味に起因するものであろう。ただ、同じ悪い事態でも(14)の例(cf. 図13)では「不使用」よりも「うえーい」が上回っているため、文脈や事態の悪さの程度等にも左右されるものと思われる。つまり、からかったり冗談めかしたりしやすい状況と、そうでないものがあるということである。

また、「いえーい」と「うえーい」を比較したとき、悪い事態においては「うえーい」が「いえーい」を上回っていた。WEBサイトの「うえーい」の記述にも「誰かの言動をおだてたり、茶化したりするとき」に使うとあり、本データはこれを支持するものである。この点は「いえーい」と「うえーい」を比較するうえで、大きな違いだと言える。では何故「うえーい」はこのような用法を持つのだろうか。

ここでカギとなるのは、「うえーい」が若者の“仲間内のことば”である、ということである。悪い事態をからかい、冗談めかすことは、仲間内でしかできない。Brown & Levinson (1987) のポライトネス理論を援用するなら、悪い事態に対して「うえーい」と発話し、からかったり冗談めかしたりすることは、FTA となるリスクが低い仲間内に対してならポジティブ・ポライトネスとして機能しうる。ただ、仲間内であっても、それがFTA となるリスクを大いに孕んでいるため、文脈や事態の悪さの程度によっては、当然FTA を行わない(「不使用」)という選択肢も出てくる。これが、悪い事態において「うえーい」あるいは「不使用」が選択されるという結果の背景にあるものである。

「いえーい」は、少なくとも「うえーい」よりは若者の“仲間内のことば”であるという特徴づけがなされておらず、ただうれしい気持ちを表すものであると解釈できる。そう捉えると、5.2節において「うえーい」が「近い関係」のみで使われるのは“仲間内のことば”だからであり、「いえーい」がそれよりも広く使えるのは“仲間内のことば”という特徴がないためと考えることができる。

### 5.4. ④情報の共有が完了しているか未完了か(感情の共有を志向するか否か)

4.4節の結果から、情報共有の完了・未完了に関わらず、良い事態であれば「いえーい」の選択が多くなり、悪い事態であれば「うえーい」の選択が多くなるということがわかった。つまり、事態の良し悪しと情報共有の完了・未完了が「いえーい」と「うえーい」の使い分けに関与すると考えたとき、関与の大きさは事態の良し悪しのほうが大きいということである。

では、情報共有の完了・未完了がこの使い分けに影響しないのかと言えば、そうでもなさそうである。これも4.4節で述べたが、情報共有の完了と未完了のデータの比較から、そこには差があり、その差は「いえーい」よりも「うえーい」の方が大きい、ということであった(表1を参照)。もし、情報共有の完了・未完了がデータに影響しないのであれば、差は出ないはずである。

表 1: 情報共有の完了・未完了とその差

例文番号	(12)	(13)	(14)	(15)
図表番号	図11	図12	図13	図14
情報共有 事態	完了 良い	未完了 良い	完了 悪い	未完了 悪い
いえーい	65	>	58	37 > 32
うえーい	41	>>	26	59 >> 40
不使用	24	<<	40	29 << 47

では、何故このような差が出るのか。ここでは、「うえーい」が感情の共有を志向するのではないかという仮説を立てておく。

そもそも、感動詞の使用になぜ情報の共有が関係するのだろうか。当該の感動詞が話し手の気持ちを表すだけなら、話し手に情報が揃った時点（未完了の時点）でその反応として発せられるはずで、相手の情報量は考慮する必要がない。相手の情報量を考慮し、情報の共有が完了している時点のほうがよいということは、そのほうが話し手と同様の反応が見込めるからではないか。つまり、情報の共有が完了しているということは、感情を共有する土台ができあがっているということではないか。このように考えると、辻褄が合うように思われる。具体的に説明するために、(14)(15)を再掲する。

(14) [LINEでのやりとり。AとBは同じ授業を受けている]

A: 寝坊や笑

B: 私も

A: (X)

(15) [LINEでのやりとり。AとBは同じ授業を受けている]

A: 寝坊や笑

B: 私も (X)

(14)は、情報共有が完了している例文である。ここで感動詞を発するAの2回目の発話前の段階で、すでにAとBは互いに寝坊している状況を理解している。この状態であれば、感情を共有する土台ができあがっているため、感情の共有を志向する「うえーい」が選択されやすいと考える。

それに対して、(15)は情報共有が未完了の例文である。ここで感動詞を発するBの発話前の段階では、Aが寝坊したという情報とBが同じく寝坊したという情報を持っているのはBだけである。AがまだそれについてわかっていないということはB自身も理解できており、この状態では感情を共有する土台ができあがっていないと考えるわけである。

もちろん、実際のところは(15)のような情報共有が未完了の状況においても、感情が共有される見込みは高いため、「うえーい」は用いられることになる。しかし、どちらが

より確実に感情の共有が見込めるかと言えば、やはり情報の共有が完了しているほうだろう。

では、「いえーい」の場合はどうか。「いえーい」が用いられやすい(12)(13)で考えてみよう。以下に再掲する。

(12) [LINEでのやりとり。AとBは同じバイト先]

A: 今月のバイト代めっちゃ入ってた笑

B: 私も

A: (X)

(13) [LINEでのやりとり。AとBは同じバイト先]

A: 今月のバイト代めっちゃ入ってた笑

B: 私も (X)

「いえーい」を用いても結果的に感情が共有されることになり、感情の共有がないわけではない。しかし、基本的にはやはり話し手のうれしい気持ちを表しているだけであり、感情の共有を志向しているものではないと考えられる。そう考えると、感情の共有が前提にないため、情報共有が完了しているという感情の共有の土台も必要なくなる。情報共有が完了している(12)でも、未完了の(13)でも、「いえーい」は話し手のうれしい気持ちを表すのみであり、感情の共有は文脈によって結果的になされる、ということである。図11から図14の「いえーい」の数値—特に「いえーい」を使う—という数値—を見ると、良い事態で情報共有完了の図11が39、情報共有未完了の図12が38であり、同様に、悪い事態で情報共有完了の図13が16、情報共有未完了の図14が17と、情報共有の完了・未完了ではほとんど差がないことがわかる。これは、「いえーい」は感情の共有が前提にないことの傍証となると思われる。

このように、「情報の共有が完了しているか未完了か」を考慮して問いを立てたが、ここに違いが表れるのは、「いえーい」と「うえーい」が「感情の共有を志向するか否か」という点について違いがあるためだと考えられるのである。

なお、この感情の共有を志向するという「うえーい」の特徴も、「うえーい」が若者の“仲間内のことば”である点との関連性を見出すことができる。吉岡(2005)などの指摘にあるように、現代の若者はポジティブ・ポライトネス志向であるという。“仲間内のことば”を使うということ自体がポジティブ・ポライトネス・ストラテジーにあたるものだが(下位ストラテジー4:内輪である標しを用いる<sup>11</sup>)、感情の共有を志向することもまた、ポジティブ・ポライトネス・ストラテジーとなっている(下位ストラテジー7:共通基盤を仮定する・喚起する・主張する)。そうでないものも容易に想定できるため、「うえーい」が若者の“仲間内のことば”だから感情の共有を志向するのだ、とまでは言えないが、ポジティブ・ポライトネスを志向するという共通項から、深い関連があるということはいえよう。

<sup>11</sup>訳は滝浦(2008)に拠った。下位ストラテジー7も同様。

最後に、情報共有の完了よりも未完了のほうが「不使用」が高い値を示すことについて触れておきたい。この点に関しては、意味や用法とは全く異なる点からの説明を考えている。それは、文の中の感動詞の位置が問題なのではないか、ということである。SNSから採集したデータを調べてみると、文末に当該の感動詞があるとき、「華金～」や「今日も元気に出勤～」のように名詞に直接「いえーい」「うえーい」がつく例、あるいは「今日も元気に出勤だぜ～」「今日も元気に出勤しよう～」のように、文末とわかるものに「いえーい」「うえーい」がつく例はあったが、(13)(15)の「私も」のように、主語＋格助詞／副助詞に「いえーい」「うえーい」がつく例はほとんど見受けられなかった。例文を作成した段階では気づかなかったが、この場合「私も {いえーい／うえーい} (だ)」のように、感動詞が述語成分として読まれる可能性があり、それが回避されているのではないだろうか。このようなことがアンケート結果にも反映されていると現在は考えているが、この点に関しては他の可能性も引き続き考慮していきたい。

## 6. おわりに

本稿では、感動詞「いえーい」と「うえーい」を比較することで、これらの違いを述べてきた。結果をまとめると、次のようになる。

### ① 隣接ペア

どちらも第1発話のものが繰り返される

### ② 親疎関係（話者間の距離）

いえーい: 近い距離から少し遠い距離まで使用される

うえーい: 近い距離に限られる

### ③ 感情を喚起させる事態が良いか悪いか

いえーい: 良い事態で多く使われる

= うれしい気持ちを表す用法で多く使われる

うえーい: 相対的に悪い事態で多く使われる

= 「いえーい」との比較においては、からかいや冗談めかしなどの用法で多く使われる

### ④ 情報の共有が完了しているか未完了か → 感情の共有を志向するか否か

いえーい: 情報の共有が完了しているか未完了かは関与しない

→ 感情の共有を志向しない

うえーい: 情報の共有が完了しているほうが使われやすい

→ 感情の共有を志向する

※ 「いえーい」「うえーい」の使用への関与の大きさ：③>④

そして、②から④において、「うえーい」のこのような用法は、「うえーい」が若者の“仲間内のことば”であるという特徴を持つということに、直接的であれ間接的であれ関連するということが述べてきた。

本稿によって、これまで明らかにされていなかった「いえーい」「うえーい」の特徴の一端を明らかにすることができた。若者ことばの「うえーい」については、新しいこと

ばなので明らかにされていなかったのはある意味で当然だが、より広く使われていると思われる「いえーい」についても、今回の調査によって研究の端緒が開かれたのではないかと思う。

課題は山積している。それぞれの節で示した課題のほか、大きな課題としては、今回はこれらの違いに注視するあまり、それぞれの感動詞の本質が何なのかについての議論が疎かになってしまった。これは今回「うれしい気持ちを表す」と大雑把にまとめてしまっているが、ある意味では今回の議論の前提となっている部分でもあるので、突き詰めていきたい。これとも関連するが、今回取り上げた感動詞としての用法の他にも、「いえーい」「うえーい」には挨拶としての用法などもあり、それらを総合して記述する必要がある。そして、それらと英語の“yay”“yeah”などとの違いも気になるところである。すべて今後に期したい。

## 参考文献

- Brown, P and Levinson, S. (1987) *Politeness: Some universals in language usage*. Cambridge University Press
- Schegloff, E. A. and Sacks, H. (1973) Opening up closings, *Semiotica*, Vol.8, pp.289–327 (北澤裕・西阪仰 (訳) (1989) 「会話はどのように終了されるのか」『日常性の解剖学：知と会話』マルジュ社, pp.175-241)
- 浅田秀子 (2017) 『現代感動詞用法辞典』東京堂出版
- 岡村佳奈 (2019) 「日本語対面会話における開始部の構造と特徴—変数による差異に注目して—」『帝京大学外国語外国文化』10, pp75-99
- 見坊豪紀・市川孝・飛田良文・山崎誠・飯間浩明・塩田雄大編 (2022) 『三省堂国語辞典第八版』三省堂
- コトバの意味辞典運営事務局 「「うえーい」とは？ 意味や使い方を顔文字を含めてご紹介」『コトバの意味辞典』<<https://word-dictionary.jp/posts/1975>> (2019年03月11日公開、2019年03月11日更新、2023年11月08日アクセス)
- 滝浦真人 (2008) 『ポライトネス入門』研究社
- 投稿者不明 「ウェーイ、ウェイ、ウェイウェイ」『実用日本語表現辞典』<[http://www.practical-japan4ese.com/2014/04/blog-post\\_3766.html?q=%E3%82%A6%E3%82%A7%E3%83%BC%E3%82%A4](http://www.practical-japan4ese.com/2014/04/blog-post_3766.html?q=%E3%82%A6%E3%82%A7%E3%83%BC%E3%82%A4)> (記事の投稿者およびWEBサイトの運営者は不明、2014年4月15日投稿、2023年11月08日アクセス)
- 橋内武 (1999) 『ディスコース—談話の織りなす世界—』くろしお出版
- 吉岡泰夫 (2005) 「コミュニケーション意識と敬語行動にみるポライトネスの変化」陣内正敬・友定賢治編『関西方言の広がりコミュニケーションの行方』和泉書院, pp.295-319

**Authors' web sites:** <https://researchmap.jp/7000003522>

(受付日: 2024年1月10日)